

平成28年度  
修了生による教育評価報告書

平成29年9月  
香川大学大学院地域マネジメント研究科

## 目次

総括	3
第1章 修了生による大学院教育評価アンケート調査の概要	
1. 調査の目的	5
2. 調査実施期間	5
3. 調査対象	5
4. 調査の内容	5
5. 集計方法	5
第2章 調査結果について	
1. 回答者の属性	6
2. 分析	
1. 在学当時の状況について	
(1) 在学中の出席状況について (問1)	8
(2) 在学中勉強時間 (問2)	8
(3) 仕事で役立ったと思う科目 (問3)	9
(4) 仕事とは関係ないが、役立ったと思う科目 (問4)	9
(5) 土曜日の開講について (問5)	10
(6) プロジェクト研究について (問6)	10
(7) 社会人組織、社会人組織以外からの支援について (問7,8)	11
(8) 学部学生の就職について (問9)	12
(9) 自習室、教室の環境について (問10,11)	12
2. 修了後の効果について	
(1) 大学院教育で身についた能力と現在の仕事に必要な能力 (問12)	13
(2) 学んだことに満足しているかについて (問13)	16
(3) 愛着について (問14)	17
3. 現在の状況について	
(1) 自己研修について (問16)	17
(2) 地域活動について (問17)	18
(3) 研究科開催の講演会・シンポジウムなどについて (問18,19)	18
(4) 後期(10月)入学の必要性について (問20)	19
3. 自由記述のデータ	
プロジェクト研究について	20
カリキュラム等について	20
改善点、要望など	20

## 総 括

- 平成 28 年度修了生 40 人中 36 人（90%）から回答があった。
- 平成 28 年度修了の 12 期生の属性の特徴は以下の通りである。
  - ・ 30 歳代の年齢層が多くなっている。
  - ・ 自宅は 7 割以上が高松市、勤務地は 6 割以上が善通寺市内である。
  - ・ 就業状況は、正規雇用が約 8 割以上である。
  - ・ 入学時の職種は、公務員（国・地方自治体）が多く次に建設機械関係が多くなっている。
  - ・ 役職は、課長、主任が多くなっている。
- 在学中の出席状況は、すべての授業に出席した場合を 100%として平均 84.1%である。前回アンケート調査(平成 27 年度修了生対象)では 86.3%であった。
- 週当たりの勉強時間は、10.2 時間である。前回アンケート調査では、10.2 時間であり、変わりはない。
- 仕事で役立ったと思う科目は、「統計分析」「組織行動論」と回答した人が多い。仕事とは関係ないが、役立ったと思う科目は、「統計分析」「四国経済事情」と回答した人が多い。
- 土曜の開講は、必要（71.4%）、ある程度必要（28.6%）で合計 100%となり、土曜日開講の必要性は高い傾向にある。前回アンケート調査(平成 27 年度修了生対象)では、必要（74.1%）、ある程度必要（22.2%）で合計 96.3%であった。
- プロジェクト研究については、「満足している」（20.0%）、「ある程度満足している」（42.9%）で合計が 62.9%となっている。前回アンケート調査(平成 27 年度修了生対象)では、「満足している」（40.7%）、「ある程度満足している」（29.6%）で合計が 70.3%であった。
- 社会人組織（所属組織）からの支援を受けた人は 42.9%、社会人組織以外（奨学金など）からの支援を受けた人は 27.6%と、あまり多くない。
- 学部からの進学生による、就職についての対応についての満足度は、「満足している」（33.3%）、「どちらともいえない」（50.0%）である。
- 環境（自習室、教室）については、教室は「満足している」（18.8%）、「ある程度満足している」（56.3%）で合計が 75.1%となり、7 割以上が満足と回答している。自習室は「満足している」（48.5%）、「ある程度満足している」（30.3%）で合計が 78.8%となり、こちらも 7 割以上が満足と回答している。前回アンケート調査(平成 27 年度修了生対象)では、教室は「満足している」（37.0%）、「あ

る程度満足している」(55.6%)で合計が92.5%であった。

自習室は「満足している」(48.1%)、「ある程度満足している」(48.1%)で合計が96.2%であった。

- 大学院教育で身についた能力は、「現状を分析し目的や課題を明らかにする力」「目標を設定し確実に行動する力」「課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力」と回答した人が多かった。
- 研究科で学んだことについての満足度は高く、「満足している」(45.2%)、「ある程度満足している」(51.6%)合計で96.8%であった。  
前回アンケート調査(平成27年度修了生対象)では、「満足している」(55.6%)、「ある程度満足している」(44.4%)と、合計100%が満足と回答している。
- 研究科に愛着があるかどうかは、「非常にある」(43.3%)、「ある程度ある」(50.0%)で「愛着がある」という回答が93.3%であり、前回アンケート調査(平成27年度修了生対象)の92.5%と同等の結果となっている。
- 講演会、シンポジウム等への参加希望が多く、「一般公開」がよいとする意見が(79.3%)「在学生・修了生のみ対象」(20.7%)となっている。
- 後期入学が必要という回答は、「非常に必要」(3.2%)、「ある程度必要」(38.7%)合計41.9%であり、「どちらともいえない」(32.3%)、「あまり必要でない」(19.4%)「全く必要でない」(6.5%)となっている。

## 第1章 修了生による大学院教育評価アンケート調査の概要

### 1. 調査の目的

この度、本研究科の平成28年度修了生を対象に大学教育評価に関するアンケート調査を実施し、その調査結果を「修了生による大学院教育評価報告書」に取りまとめた。

この調査の目的は、本研究科の提供する専門職大学院教育の成果・効果を明らかにするとともに、本研究科に対する要望等を把握することを目的として実施することである。

### 2. 調査実施日

平成29年3月24日（金）修了後

### 3. 調査対象

#### （1）調査対象と調査方法

調査対象は、平成28年度地域マネジメント研究科の修了生全員である。修了式、学位授与式の終了後、修了生にアンケートに記入してもらい、その場で回収した。

#### （2）回収数及び回収率

アンケート調査の回収数は、平成28年度修了生40人中36人から回答があり、回答率は90%であった。

### 4. 調査の内容

アンケート調査の質問項目は、Ⅰ. 在学当時の状況について、Ⅱ. 在学当時の支援関係について、Ⅲ. 修了後の効果について、Ⅳ. 現在の状況について、Ⅴ. 香川大学、本研究科へのご要望、Ⅵ. あなた自身について、の6項目についてである。詳しい内容は第3章の資料編を参照願いたい。

### 5. 集計方法

集計方法は、各問ごとに単純集計を行い、合計数とその割合（小数点第1位未満を四捨五入）を%で表示した。なお、回答にあたって、未記入（無回答）と答えたものは、集計数に含めないこととした。そのため、問ごとに集計総数が異なっている。

なお、各問ごとの集計結果は、第3章資料編に綴っているので、参照願いたい。

## 第2章 調査結果について

### 1. 回答者の属性

問 21～問 28 は、回答者（修了生）の入学時の年齢、住所所在地及び勤務地、就業状況、職種等を問うたものである。集計結果については、前述したとおり無回答を除いているため、集計総数が問ごとに異なっているのをご注意願いたい。

#### (1) 入学時の年齢（問 21）

入学時の年齢については、30 歳代（38.5%）が最も高く、以下、50 代（23.1%）、20 代（19.2%）、40 代（19.2%）と続いている（図 1 を参照）。

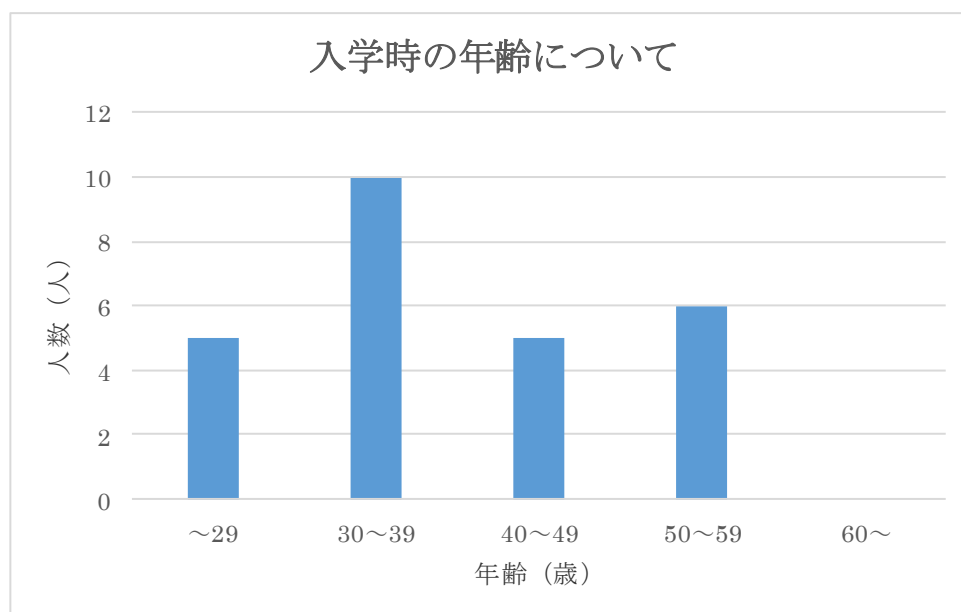


図 1 入学時の年齢

#### (2) 入学時の自宅所在地及び勤務地（問 22）

研究科入学時における自宅所在地は、高松市 72.0%（18 人）で、高松市以外の香川県 16%（4 人）、県外は岡山県倉敷市 4.0%（1 人）、愛媛県西条市 4.0%（1 人）、徳島県つるぎ市 4.0%（1 人）である。

勤務地は、善通寺市 63.6%（14 人）で、善通寺市以外の香川県勤務地は 22.7%（5 人）、岡山県 4.5%（1 人）、愛媛県 4.5%（1 人）徳島県 4.5%（1 人）となっている。

#### (3) 入学時の就業状況、職種、役職について（問 23, 24, 25）

問 23 は本研究科の修了生が入学時に正規雇用で働いているか、非正規雇用で働いているかを問うたものである。正規雇用が 82.6%（19 人）、非正規雇用が 13.0%（3 人）、働いていないは 4.3%（1 人）である。

職種は、公務員（国・地方自治体）22.7%（5 人）が一番多く、建設・機械関係 18.2%（4 人）、その他 18.2%（4 人）食品・化学関係 9.1%（2 人）、情報・通信関係 9.1%（2 人）、保健・衛生・医療関係 9.1%（2 人）、商品・金融関係 4.5%（1 人）となっている。（図 2 を参照）。

役職は、課長 17.6%（3 人）主任 17.6%（3 人）が一番多く、一般 11.8%（2 名）、アルバイト、係長、主査、主事（正社員）、設計事務所開設者、代表取締役、副主幹、副調査役が各 5.9%（1 人）と続く。

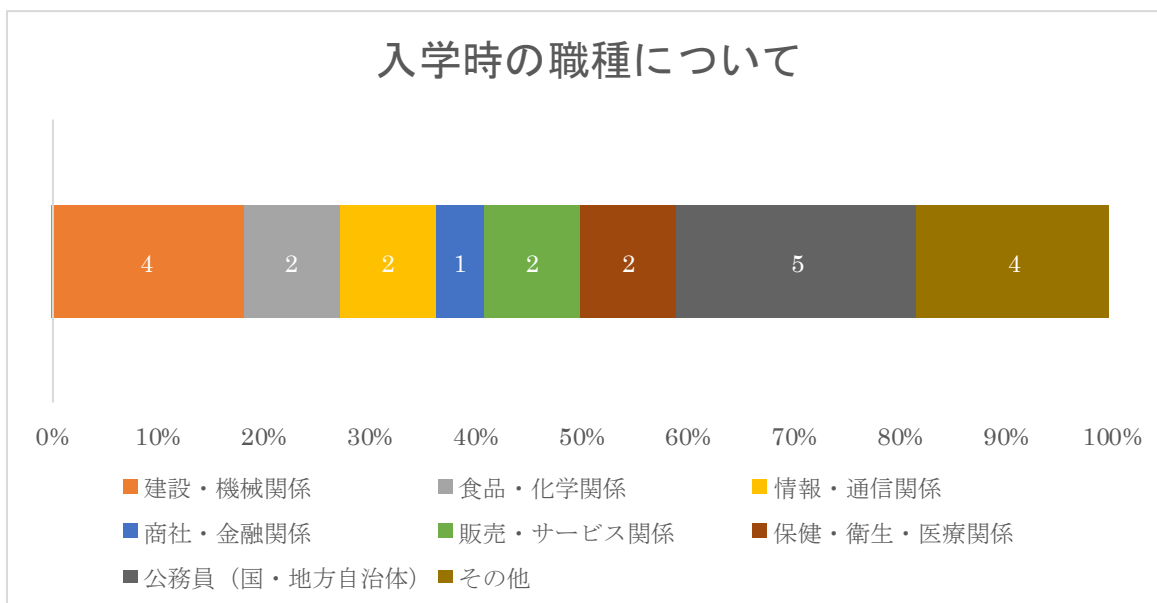


図 2. 入学時の職種について

#### (4) 現在の就業状況、職種について（問 26, 27, 28）

問 26 は本研究科の修了生が現在、正規雇用で働いているか、非正規雇用で働いているかを問うたものである。正規雇用が 79.2%（19 人）、非正規雇用が 8.3%（2 人）である。

職種は、公務員(国・地方自治体)27.3%（6 人）が一番多く、続いて、建設・機械関係 18.2%（4 人）が多く、その他 13.6%（3 人）、食品・化学関係、販売・サービス関係、保健・衛生医療関係各 9.1%（2 人）、農林・水産省、商社・金融関係、教育関係各 4.5%（1 人）となっている(図 3 を参照)。

役職は、主任 14.3%（2 人）が一番多かった。セールス、一般社員、課長、官、係長、主査、主事、嘱託、設計事務所開設者、代表取締役、部次長、副調査役が各 7.1%（1 人）と続いた。

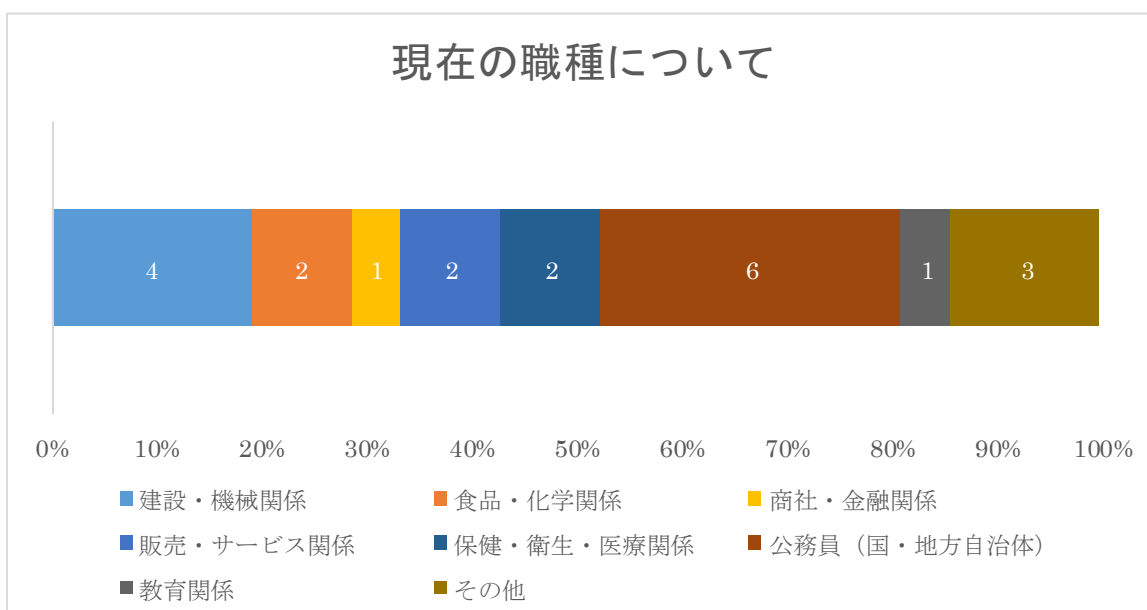


図 3. 現在の職種について

## 2. 分析

### 1. 在学当時の状況について

#### (1) 在学中の出席状況について（問1）

在学中にどれだけ出席できたかを見してみる。全ての授業に出席した場合を100%とし回答してもらったところ、平均が85.3%となった（図4を参照）。

前回アンケート調査(平成27年度修了生対象)では、86.3%であった。

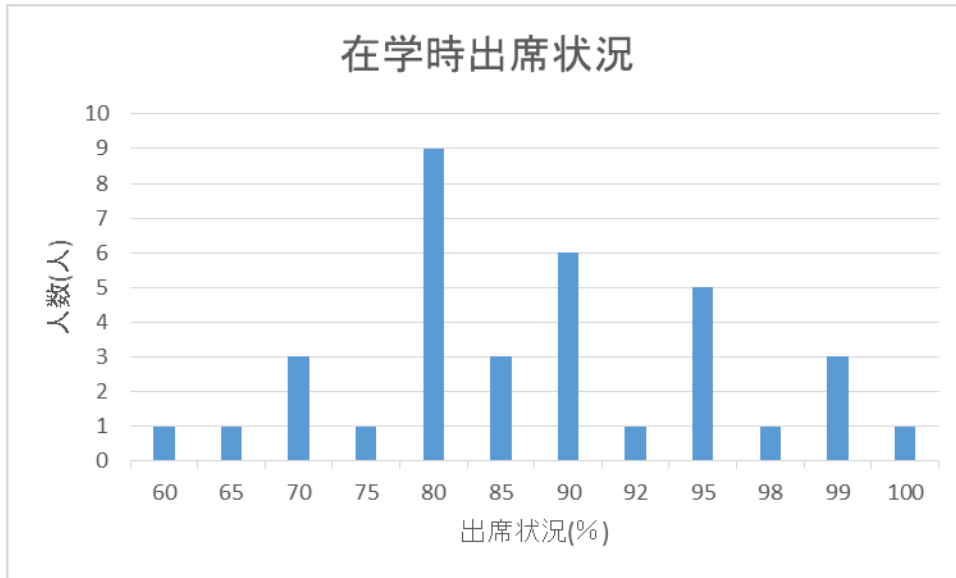


図4. 在学中出席状況

#### (2) 在学中勉強時間（問2）

在学中に週に勉強時間をどの程度、またどのように確保したのかを見してみると、平均、10.2時間となる（図5を参照）。

前回アンケート調査(平成27年度修了生対象)でも、10.2時間であった。

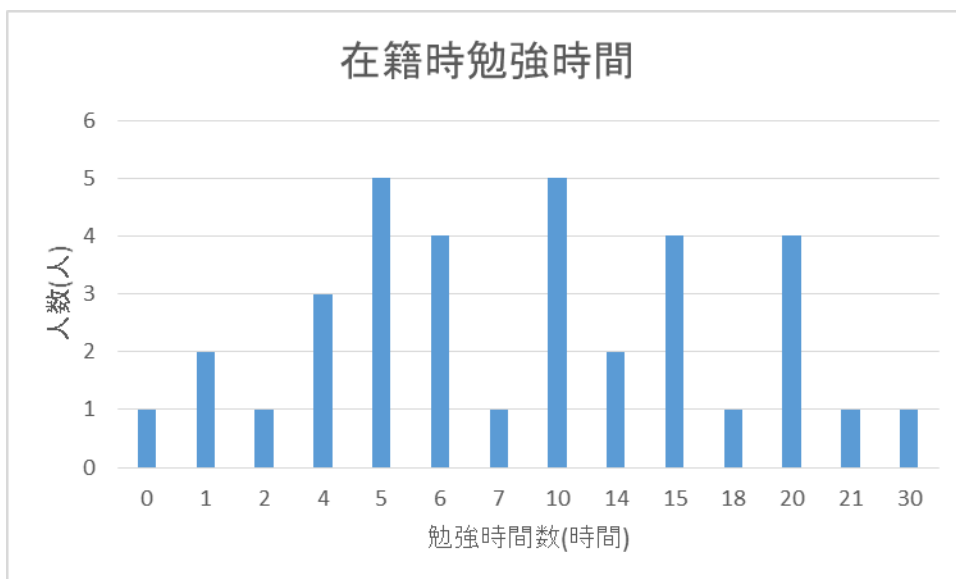


図5. 在学中勉強時間



(3) 仕事で役立ったと思う科目 (問3)

仕事に役立ったと思う科目を見ると以下のようなになる。最大3つ答えているので、他の問よりも総数が多くなっている。

表1. 仕事の上で役立ったと思う科目

統計分析	10	13.9%	都市開発論	2	2.8%
組織行動論	7	9.7%	経営管理論	1	1.4%
経営リスクマネジメント	4	5.6%	イノベーションマネジメント	1	1.4%
アカウンティング	4	5.6%	マーケティングマネジメント	1	1.4%
マネジメントシステム	4	5.6%	クリエイティビティと地域活性化	1	1.4%
地域公共政策	3	4.2%	地域観光マネジメント	1	1.4%
自治体財政政策	3	4.2%	国際経営	1	1.4%
マーケティング戦略	3	4.2%	事業構想論	1	1.4%
マネジメントアカウンティング	2	2.8%	新産業政策	1	1.4%
地域マネジメント論	2	2.8%	四国経済事情	1	1.4%
人的資源管理論	2	2.8%	意思決定分析	1	1.4%
費用便益分析	2	2.8%	地域の中小企業と経済活性化	1	1.4%
マーケティング	2	2.8%	経営マネジメント	1	1.4%
地域活性化と観光創造	2	2.8%	デザインマネジメント	1	1.4%
ビジネスアカウンティング	2	2.8%	マネジメントシステム	1	1.4%
ファイナンスマネジメント	2	2.8%	プロジェクト研究	1	1.4%
			プロジェクト演習	1	1.4%

(4) 仕事とは関係ないが、役立ったと思う科目 (問4)

仕事とは関係ないが、役立ったと思う科目を見ると以下のようなになる。この問も最大3つ答えているので、他の問よりも総数が多くなっている。

表2. 仕事とは関係なく役立ったと思う科目

統計分析	8	16.0%	国際経営	1	2.0%
四国経済事情	4	8.0%	アートと地域活性化	1	2.0%
マーケティングリサーチ	3	6.0%	イノベーションマネジメント	1	2.0%
四国経済事情(企業)	3	6.0%	社会起業家論	1	2.0%
地域マネジメント論	3	6.0%	地域マネジメントとファイナンス	1	2.0%
オリーブ事業化マネジメント	2	4.0%	プロジェクト演習	1	2.0%
ファイナンスマネジメント	2	4.0%	地域経済分析	1	2.0%
マーケティング戦略	2	4.0%	マーケティングマネジメント	1	2.0%
アカウンティング	2	4.0%	実践型地域活性化演習	1	2.0%
ビジネスアカウンティング	2	4.0%	意志決定分析	1	2.0%
ゲーム理論	2	4.0%	地域活性化と観光創造	1	2.0%
事業構想論	2	4.0%	経営リスクマネジメント	1	2.0%
自治体財政政策	1	2.0%	マネジメントアカウンティング	1	2.0%
クリエイティビティと地域活性化	1	2.0%	実践型クリエイティブワーク		
経済分析			人的資源管理論		
			地域活性化と資本市場		

(5) 土曜日の開講について (問 5)

社会人学生が多いこともあり、現在は土曜日も開講しているが、それについての回答が以下のようになる (図 6 を参照)。「必要」(71.4%)「ある程度必要」(28.6%) 合計 100%となった。

前回アンケート調査(平成 27 年度修了生対象)では、「必要」(74.1%)「ある程度必要」(22.2%) 合計 96.3%であった。

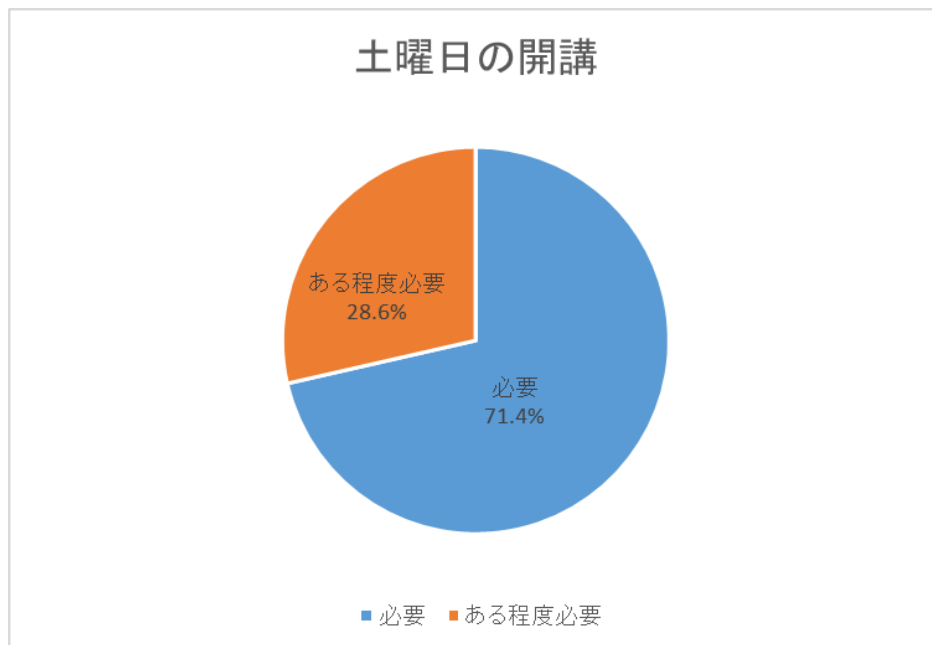


図 6. 土曜日の開講について

(6) プロジェクト研究について (問 6)

本研究科のカリキュラムの集大成となるプロジェクト研究について見てみると、「満足している」(20.0%)、「ある程度満足している」(42.9%) で合計 62.9%となった (図 7 を参照)。

前回アンケート調査(平成 27 年度修了生対象)では、「満足している」(40.7%) および「ある程度満足している」(29.6%) で合計 70.3%であった。

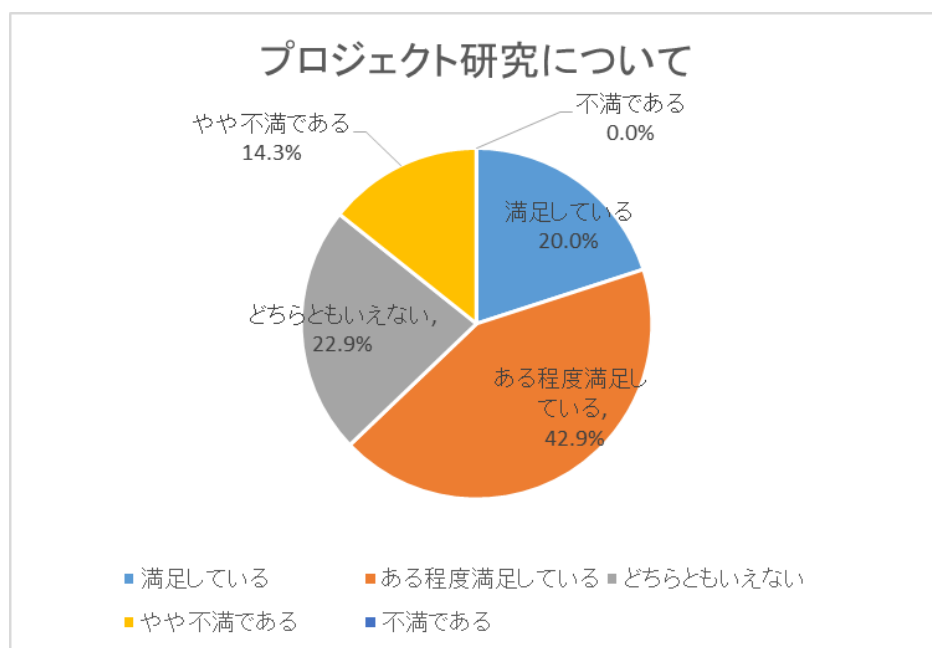


図 7. プロジェクト研究について

(7) 社会人組織、社会人組織以外からの支援について (問 7,8)

社会人学生に、社会人組織（所属組織）からの支援ならびに社会人組織以外（奨学金など）からの支援について見てみると、以下のような状況である（図 8 を参照）。

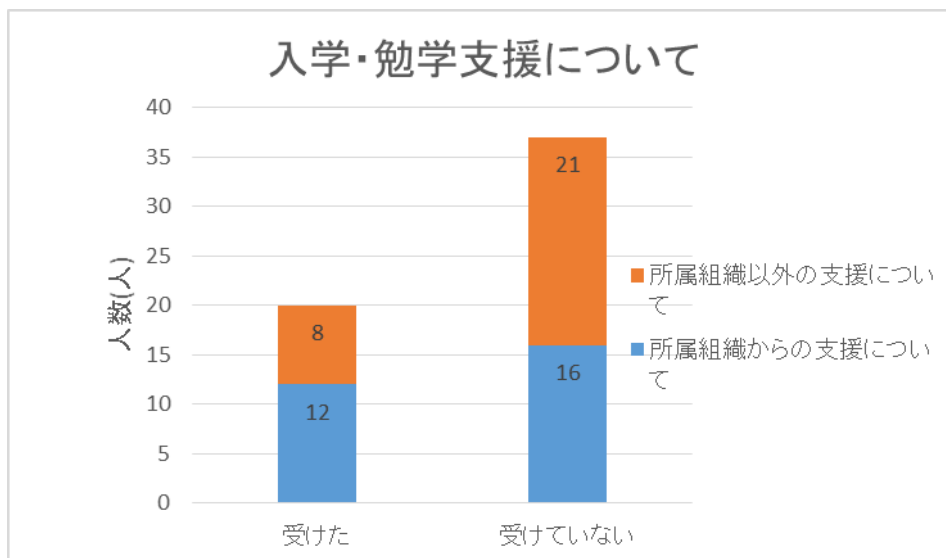


図 8. 入学・勉学支援について

(8) 学部学生の就職について (問 9)

学部からの進学生に、就職についての対応についての満足度を見てみることにする（図 9 を参照）。

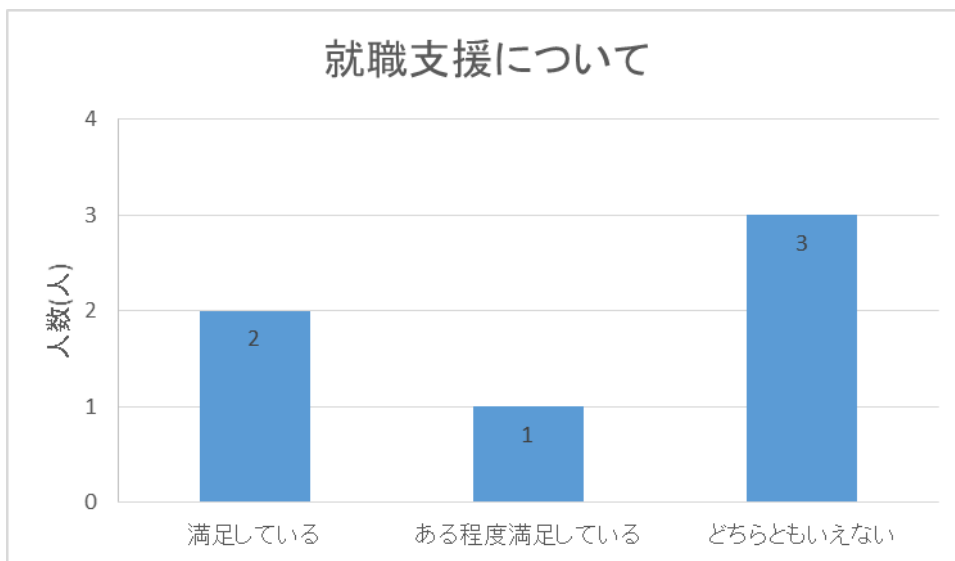


図 9. 就職支援について

(9) 自習室、教室の環境について (問 10,11)

自習室と教室の環境についての満足度を見てみると、教室は「満足している」(18.8%)、「ある程度満足している」(56.3%) で合計 75.1%が満足と回答している。自習室は「満足している」(48.5%)、「ある程度満足している」(30.3%) で合計で 78.8%が満足と回答している (図 10 を参照)。

前回アンケート調査(平成 27 年度修了生対象)では、教室は合計 92.6%が満足、自習室は合計 96.3%が満足と回答しているので、自習室、教室の満足度が下がった。

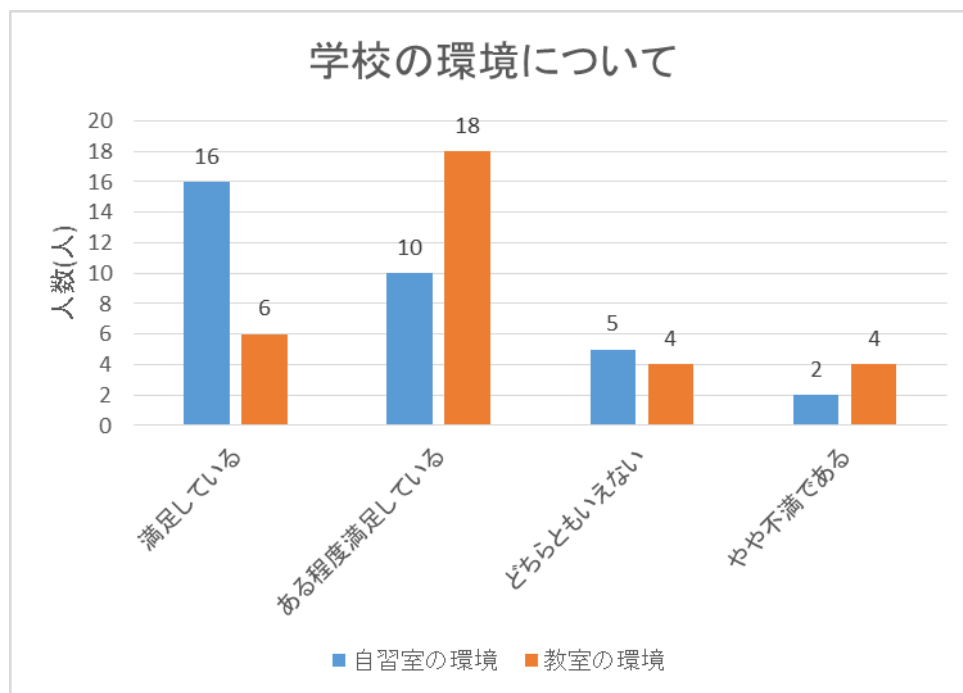


図 10. 学校の環境について

## 2. 修了後の効果について

### (1) 大学院教育で身についた能力と現在の仕事に必要な能力（問 12）

ここでは、19の能力について、大学院教育でどの程度身についたか、また現在の仕事でどの程度必要とされているかを、「身についた」「ある程度身についた」「どちらともいえない」「あまり身につけていない」「身につけていない」、「必要」「ある程度必要」「どちらともいえない」「あまり必要ない」「必要ない」の5段階で回答してもらった。

なお、大学院教育の項目の「身についた」から「身につけていない」までを、「5、4、3、2、1」の5段階に（図 11-1 を参照）、現在の仕事の項目の「必要」から「必要ない」までを、「5、4、3、2、1」の5段階で表示した（図 11-2 を参照）。

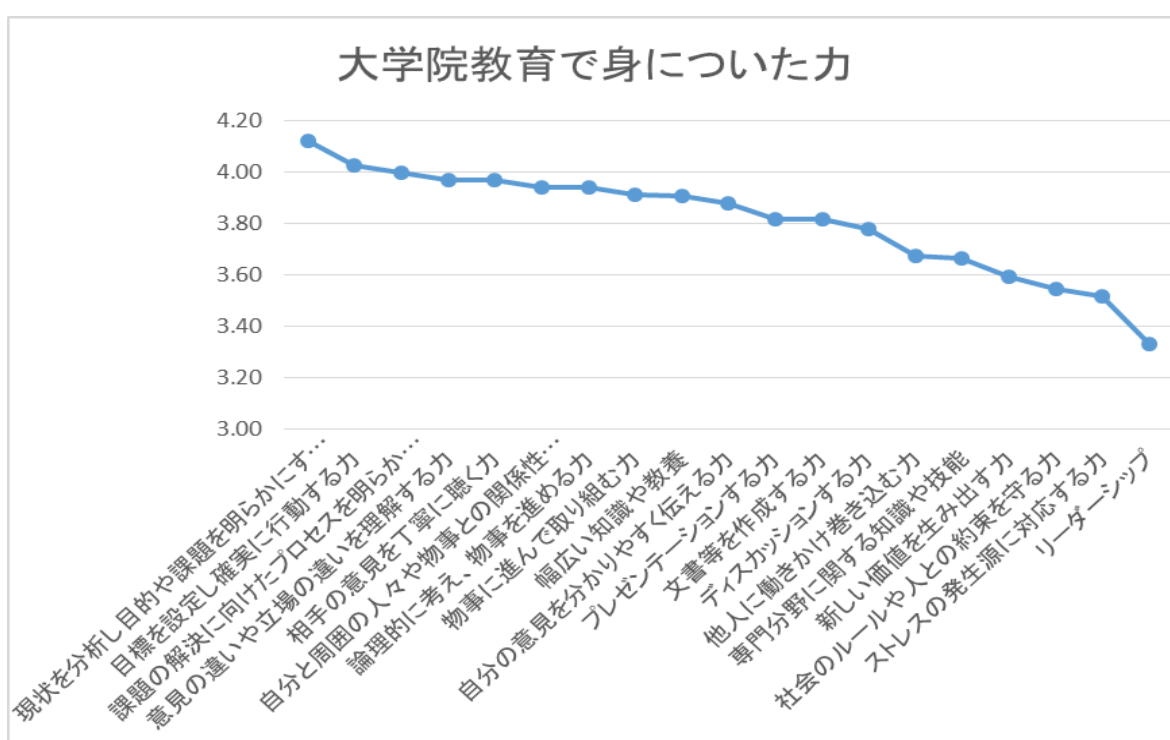


図 11-1. 大学院教育で身についた能力

表3 大学院教育で身に付いた能力（平均点順）

		平均値	標準偏差
④	現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4.12	0.65
③	目標を設定し確実に行動する力	4.03	0.52
⑤	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4.00	0.66
⑨	意見の違いや立場の違いを理解する力	3.97	0.68
⑧	相手の意見を丁寧に聴く力	3.97	0.77
⑩	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	3.94	0.75
⑮	論理的に考え、物事を進める力	3.94	0.70
①	物事に進んで取り組む力	3.91	0.62
⑬	幅広い知識や教養	3.91	0.64
⑦	自分の意見を分かりやすく伝える力	3.88	0.78
⑱	プレゼンテーションする力	3.82	0.81
⑯	文書等を作成する力	3.82	0.68
⑰	ディスカッションする力	3.78	0.79
②	他人に働きかけ巻き込む力	3.68	0.81
⑭	専門分野に関する知識や技能	3.67	0.96
⑥	新しい価値を生み出す力	3.59	0.95
⑪	社会のルールや人との約束を守る力	3.55	0.87
⑫	ストレスの発生源に対応する力	3.52	1.00
⑲	リーダーシップ	3.33	0.78

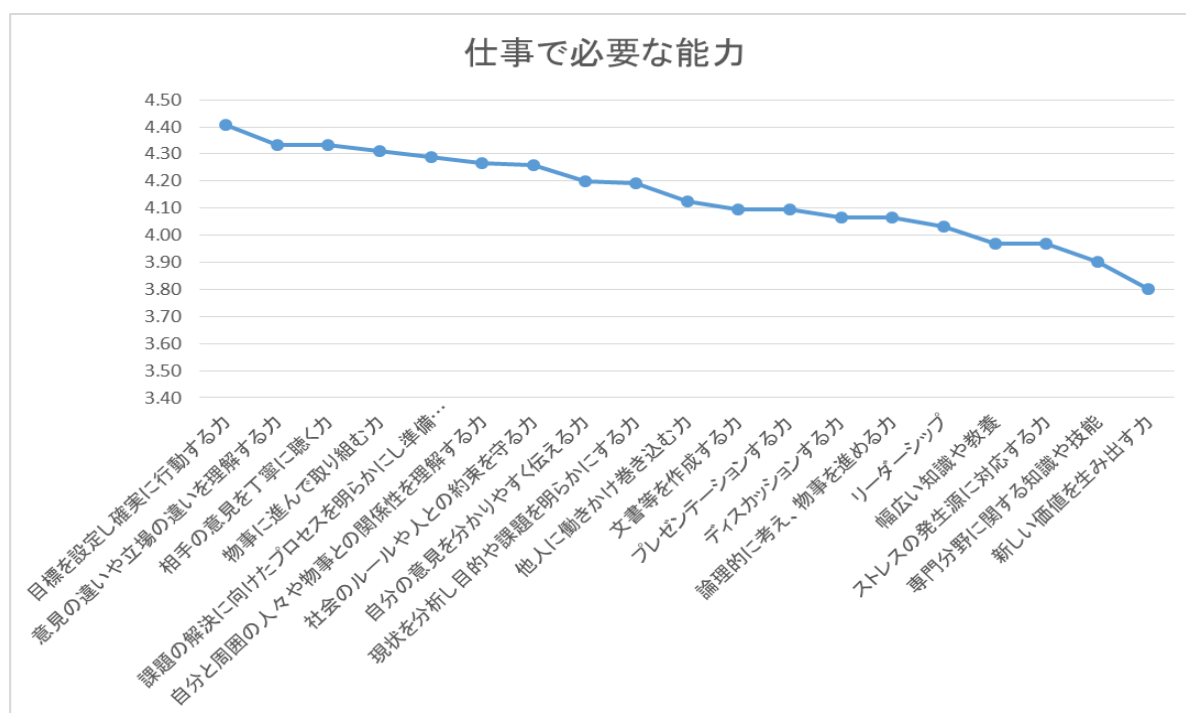


図 11-2. 現在の仕事で必要な能力

表4 現在の仕事に必要な能力（平均点順）

		平均値	標準偏差
④	現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4.71	0.56
⑦	自分の意見を分かりやすく伝える力	4.67	0.58
⑨	意見の違いや立場の違いを理解する力	4.57	0.60
③	目標を設定し確実に行動する力	4.57	0.93
⑤	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4.52	0.98
⑧	相手の意見を丁寧に聴く力	4.52	0.81
⑩	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	4.48	0.60
①	物事に進んで取り組む力	4.43	0.68
②	他人に働きかけ巻き込む力	4.43	0.68
⑪	社会のルールや人との約束を守る力	4.43	1.03
⑮	論理的に考え、物事を進める力	4.38	0.74
⑬	幅広い知識や教養	4.38	0.86
⑭	専門分野に関する知識や技能	4.33	0.73
⑲	リーダーシップ	4.24	1.14
⑥	新しい価値を生み出す力	4.24	1.04
⑫	ストレスの発生源に対応する力	4.24	0.70
⑰	ディスカッションする力	4.14	1.11
⑱	プレゼンテーションする力	4.00	1.18
⑯	文書等を作成する力	3.86	2.15

表5 「大学院教育で身についた能力」と「現在の仕事で必要な能力」の順位差

		身についた能力	仕事に必要な能力	順位差 ※
①	物事に進んで取り組む力	8	4	-4
②	他人に働きかけ巻き込む力	14	10	-4
③	目標を設定し確実に行動する力	2	1	-1
④	現状を分析し目的や課題を明らかにする力	1	9	8
⑤	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	3	5	2
⑥	新しい価値を生み出す力	16	19	3
⑦	自分の意見を分かりやすく伝える力	10	8	-2
⑧	相手の意見を丁寧に聴く力	5	3	-2
⑨	意見の違いや立場の違いを理解する力	4	2	-2
⑩	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	6	6	0
⑪	社会のルールや人との約束を守る力	17	7	-10
⑫	ストレスの発生源に対応する力	18	17	-1
⑬	幅広い知識や教養	9	16	7
⑭	専門分野に関する知識や技能	15	18	3
⑮	論理的に考え、物事を進める力	7	14	7
⑯	文書等を作成する力	12	11	-1
⑰	ディスカッションする力	13	13	0
⑱	プレゼンテーションする力	12	12	0
⑲	リーダーシップ	19	15	-4

※順位差は、現在の仕事で必要な能力（順位）-大学院教育で身についた能力（順位）

(2) 学んだことに満足しているかについて（問13）

ここでは、総合的にみて、研究科で学んだことについて満足しているかについて見てみると、「満足している」（45.2%）、「ある程度満足している」（51.6%）合計が96.8%であった（図12を参照）。

前回アンケート調査（平成27年度修了生対象）では、「満足している」（55.6%）、「ある程度満足している」（44.4%）合計が100%であった。

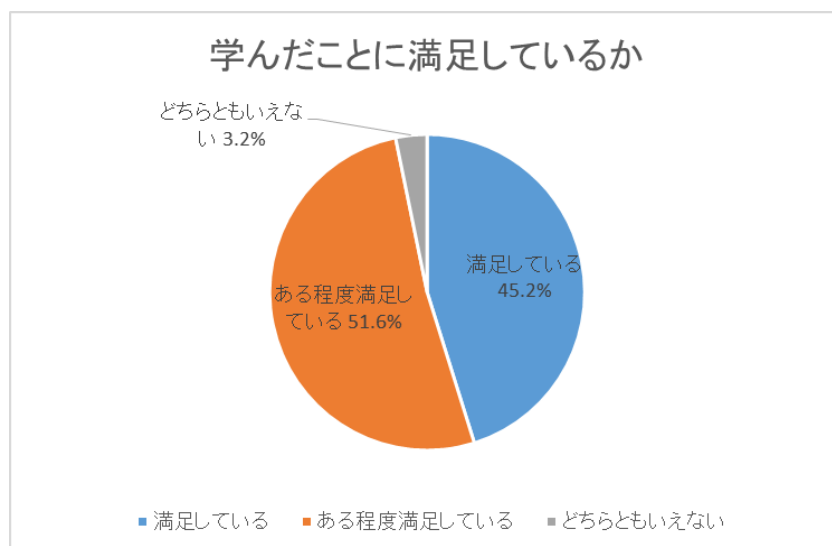


図12. 学んだことに満足しているか



### (3) 愛着について (問 14)

研究科に愛着があるかどうかを見てみると、「非常にある」(43.3%)、「ある程度ある」(50.0%)で合計 93.3%となり、9 割以上が「愛着がある」と回答した (図 13 を参照)。前回アンケート調査(平成 27 年度修了生対象)では、合計が 92.6%であった。

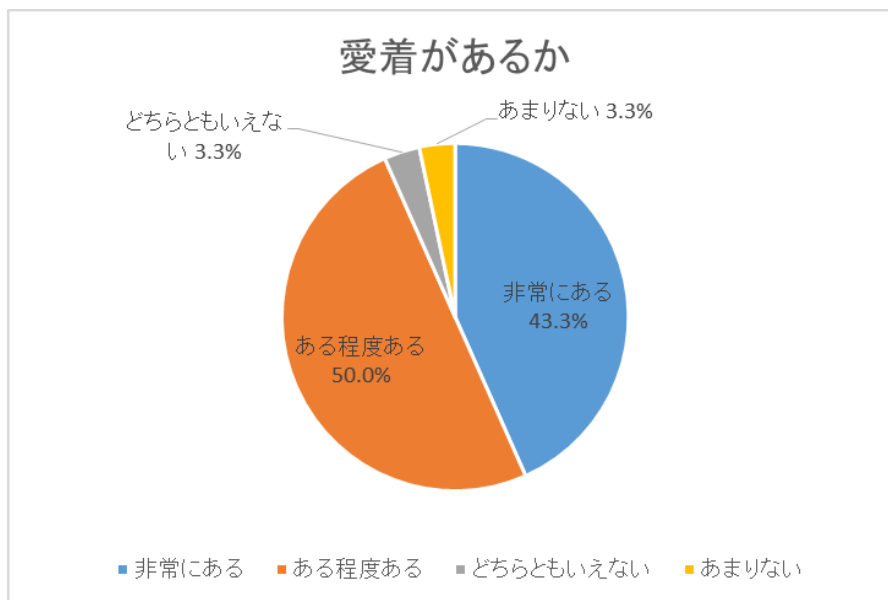


図 13. 愛着があるか

### 3. 現在の状況について

#### (1) 自己研修について (問 16)

能力向上のため、何か自己研修を行っているかを見てみると、行っている人・予定している人 (56.6%) と行っていない人 (43.3%) となった (図 14 を参照)。

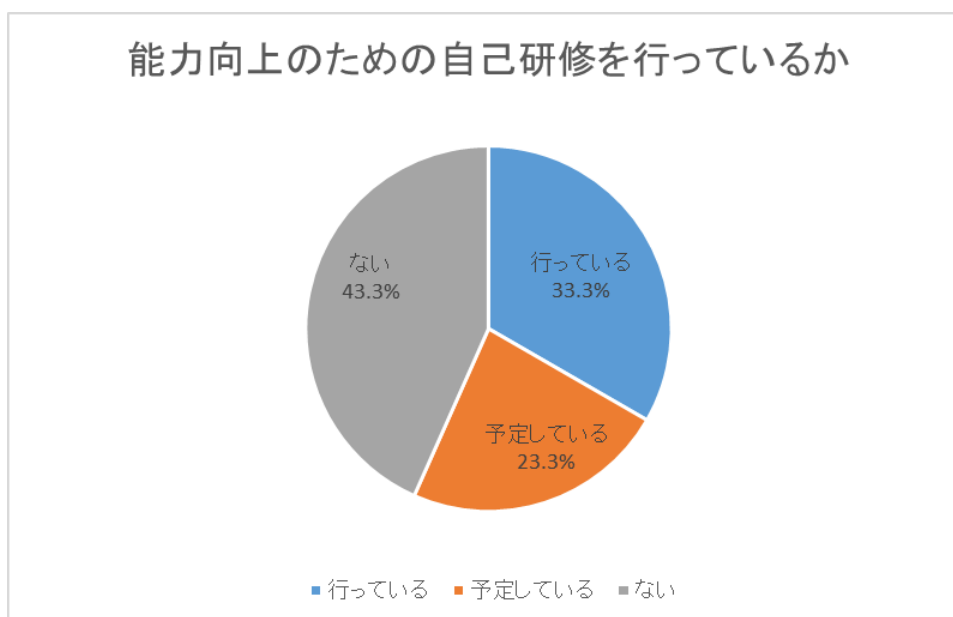


図 14. 能力向上のための自己研修を行っているか

(2) 地域活動について (問 17)

個人あるいはグループで地域のための活動を行っているかを見てみると、行っている人・予定している人 (58.6%) と行っていない人 (41.4%) となった (図 15 を参照)。

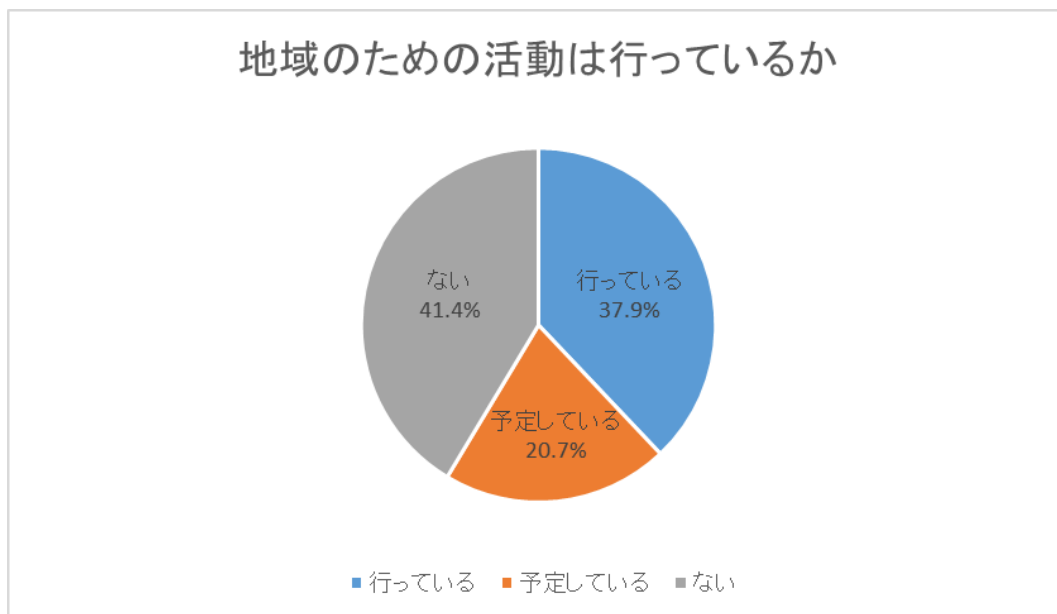


図 15. 地域の為の活動を行っているか

(3) 研究科開催の講演会・シンポジウムなどについて (問 18, 19)

研究科で開催した講演会・シンポジウムなどに参加しようと思うかについて見てみると、86.4% が参加を希望している (図 16 を参照)。

さらに、研究科で開催する講演会・シンポジウムはどのような形がよいと思うかについて見てみると、対象を限定しない「一般公開」が 79.3%、「在学生・修了生のみ対象」が 20.7% となった (図 17 を参照)。

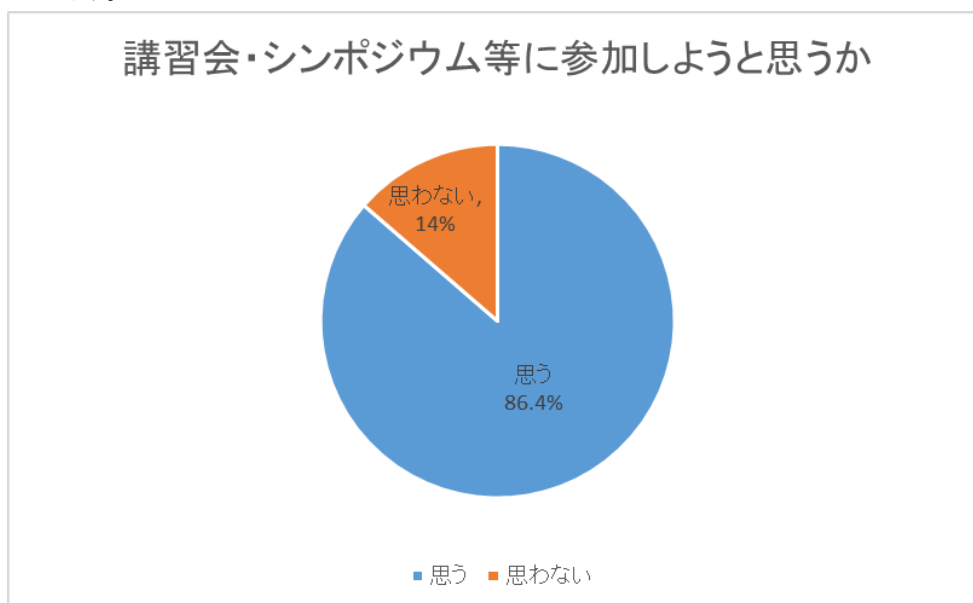


図 16. 講演会・シンポジウムに参加したいか

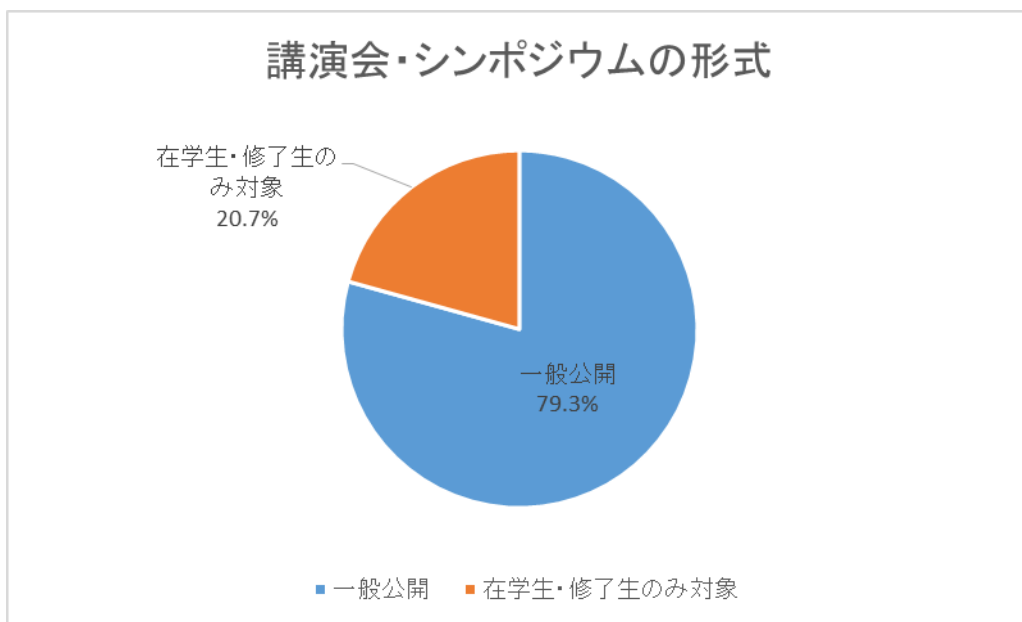


図 17. 講演会・シンポジウムの形式について

(4) 後期（10月）入学の必要性について（問 20）

研究科に、後期（10月）入学が必要かどうかについて見てみると、「非常に必要」（3.2%）、「ある程度必要」（38.7%）となった（図 18 を参照）。

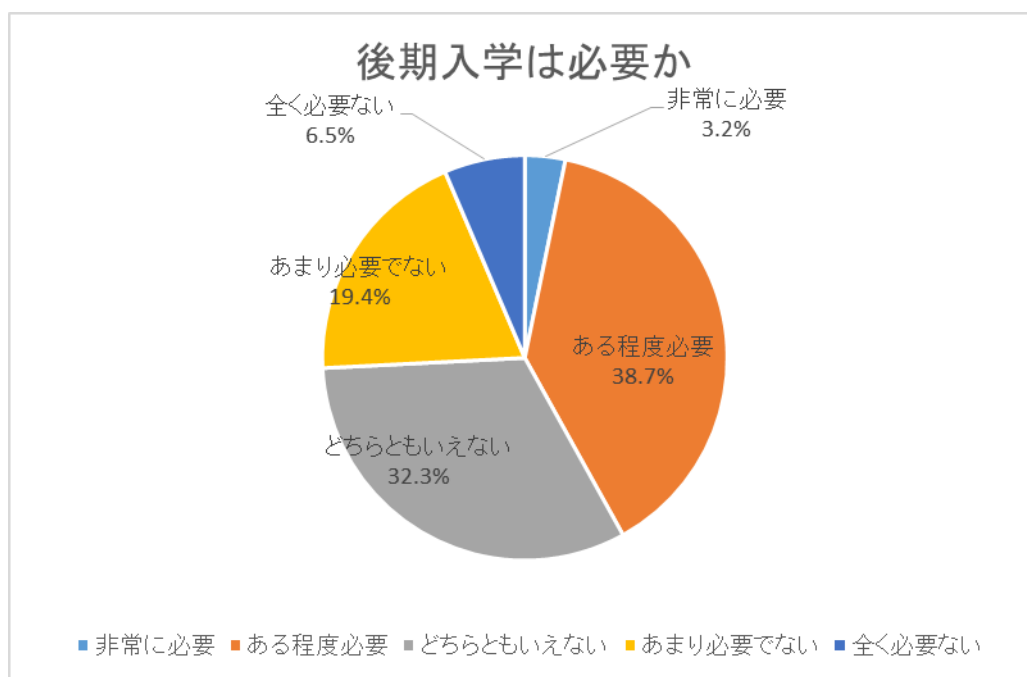


図 18. 後期入学の必要性について

### 3. 自由記述のデータ

問 6 プロジェクト研究についてどう思いますか。またその理由はなんですか。

- ・時間切れ、早くから取り組みたかった
  - ・指導が不十分だと感じた
  - ・社会科学の考え方を身につけることが出来た
  - ・グループ分けについて希望をとってほしかった
  - ・一年の早い段階から計画的な話をしてほしかった
  - ・先生方からの確かつ丁寧な御指導をいただけ、自身の関心のあるテーマを深められた
  - ・先生方のきめ細かい指導があり不安ながらも最後までやり遂げられた
  - ・学ぶ姿勢になると思います
  - ・(自分の問題ですが)書くのが遅くて最終的にじっくりとした分析がしきれていなかった気がする
- るので
- ・時間配分、深夜などなど時間の管理をきちんとしてほしい
  - ・公共事業の福祉政策提案に偏りあり。公共ビジネスになっていない
  - ・方法論がアンケート・インタビュー・定性とワンパターンの傾向あり
  - ・授業(講義)として時間はやはり区切り大切。早朝(翌日)定期に早い人はいるでしょう。せめて10:00PMまで。個人によって、早目に帰宅とする

問 15. 地域マネジメント研究科のカリキュラム等について自由に意見を記入してください。

- ・幅広いカリキュラムがあるので良いと思う
- ・時間に関するマネジメントをお願いしたいです
- ・SPSS 講座の中級みたいなのがほしい
- ・学習の為一般教養として役に立つ、しかしある程度年配の人に傾向が強いと思う。

V. 香川大学、あるいは地域マネジメント研究科がもっと重視したり改善したりした方が良くと思う教育内容や取り組み、要望などがございましたら、ご自由にお書きください。

- ・事務対応をまず良くすること(連絡が非常に遅い)
  - ・〃(教員側にも改善の意志が弱いと感じる)
  - ・授業内容を個人・全体が振り返り、改善の要素を見つける為にも講座記録原則がいいと思います
- す
- ・健全な批判を行う場が必要。又、社会的に使用するべきではない表現をホームページ等に掲載するのは、在校生として空しかったです
  - ・授業内でもっとディスカッションの時間が多い方が良くと思う
  - ・修了生の企業への取り組み推進、サポート、アフターサポート、ネットワーク形成